

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	工業科教育法B(A Method of Industrial Education B)	授業コード	K002151
担当教員名	高山 勲		
配当学年	3	開講期	後期
必修・選択区分	必修(教職)	単位数	2
履修上の注意または履修条件	工業高校の教員に必要な教科-工業免許取得のため必要です。工業免許取得を考えている方は、学部・学科を問わず必ず受講してください。		
受講心得	将来教師になるのに相応しい服装及び学習態度で授業に臨むこと。		
教科書	工業数理基礎(文部科学省検定済教科書) 早川 義一 他 著 コロナ社		
参考文献及び指定図書	高等学校学習指導要領解説 工業編 文部科学省 高等学校学習指導要領 工業編 文部科学省 実教出版社 工業高校の挑戦 学文社		
関連科目	教職概論、職業指導、教育方法技術論		

授業の目的	教科-工業免許取得と多様化する生徒に接してどのような生徒指導や教科指導するべきか。また、教員として学内でのあり方などを理解し取得することを目的とします。また、教育実習では、実習校の担当の先生から教育方法を教わりますが、担当の先生と変わって授業の実施やホームルームなどもあります。最終的に、一人で学習指導案を書いて、教えることとなります。このようなことがあっても戸惑わないよう教育実習に必要な知識の取得を目的とします
授業の概要	人前で話すには、習うよりも慣れろといわれるように経験を積まないと技能もあがりません。そこで、本授業では講義と受講生による模擬講義を2回行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：模擬授業 工業科教育法Aで作成した学習指導案をもとに模擬講義を実施します。このために必要な教材及び教材ノートを作成します。	
第2週：模擬講義 学習指導案の導入部分を実施してもらい、評価(成績対象とはしない。)します。	
第3週：模擬講義 学習指導案の展開に部分を実施してもらい、評価(成績対象とはしない。)します	
第4週：模擬講義実践 第2週、3週をまとめ、30分で行ってもらい、評価(成績対象とはしない。)します	
第5週：模擬講義実践 第2週、3週をまとめ、30分で行ってもらいます。評価(成績対象とはしない。)します。 ※(生徒指導について論じます。)	
第6週：進路指導とインターンシップ 進路指導の教育的意義・指導計画やインターンシップについて論じます。	
第7週：課題研究指導法 研究発表や全国で開催されている高校生が参加できる競技を関連させて、課題研究の意義、目的を論述します。	
第8週：模擬講義実践 第4週で行った模擬講義を改善し、実時間50分で講義を行ってもらいます。成績評価の対象とします。	

第9週：模擬講義実践 第4週で行った模擬講義を改善し、実時間50分で講義を行ってもらいます。 成績評価の対象とします。※(工業高校の現状)		
第10週：模擬講義実践 第4週で行った模擬講義を改善し、実時間50分で講義を行ってもらいます。 成績評価の対象とします。※(教科指導方法の紹介)		
第11週：高等学校の施設・設備 工業高校の施設・設備、校務分掌について論じます		
第12週：教育実習 教育実習の重要性・目標、年間指導案の作成などを論じます		
第13週：教育実習 教育実習の重要性・目標、年間指導案の作成などを論じます		
第14週：教育実習 教育実習における心構えとして、生徒との接し方や空き時間の利用について論じます。		
第15週：教育実習 教務事務処理活用さらに最新教育の収集と発信へのパソコン活用について論じます。		
第16週：期末試験 主に第11週から15週の内容で試験範囲とします。		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	① 教材作成方法を理解する
【知識・理解】	②講義の手法を理解している。 ③教材とは何かを理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	④適切な、声で話すことができる。
【思考・判断・創造】	④講義の時間を判断ができ、時間内に講義を終えることができる

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	70点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。			10点	
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	模擬講義において、丁寧な字で板書ができ、かつ立ち位置を考えることができる。 学習指導案を頭にイメージして、講義ができる。